

## 行事予定

- 〔菊舎顕彰会総会〕 新型コロナの影響を鑑み、会場開催は中止します。五月初旬に理事他に資料・書面表決書を送付します。
- 〔菊舎顕彰俳句大会〕 十月十七日(日) 田耕促進センター(予定) 詳細は後日お知らせいたします。
- 〔菊舎展〕 令和四年一月十五日(土)～二月二十七日(日)(予定) 豊北歴史民俗資料館(太翔館) 主催:下関市教育委員会

\*その他の行事は未定です。何かあればまたお知らせいたします。ホームページ「菊舎顕彰会」の情報等も参照ください。

## お知らせ

会員の中村 佑さんが菊舎物語後編『きめたの音』を上梓されました。本代は無料ですが、発送用スマートレター代百八十円が必要です。予約を受付しますので、百円切手と九十円切手を各一枚同封して左記住所まで。二冊希望の場合、二百八十円切手と百円切手夫々一枚ずつ。その他の冊数は電話等で確認ください。発送は五月十四日です。



〒七五〇一〇三二四 下関市菊川町上田部三四二一 中村 佑 宛  
電話:〇九〇一三六三〇一四一七〇

お願い:少額の切手を送られる場合、スマートレターに交換の際に切手一枚毎に五円の手数料が掛かることを考慮ください。

## 近況報告

台湾 張 方禹(チョウ ホウウ)

日本の会員の皆様こんにちは。台湾のピピアンです。この度私は台湾大学日本語文学科の修士課程を修了しました。二年半の研究で、沢山の史料(主に女性たちの旅日記)を読みました。江戸時代の女性たちは想像よりもはるかに自由な生活をおくっていました。私は彼女たちの勇敢さを心から尊敬しています。この研究のおかげで私も日記を書き始めました。二百年後、私の日記を誰かが研究してくれたらと思います。

修士論文を書き終え、今後の私にはどのような未来が待っているのでしょうか。今年は二月十一日～十六日が台湾の旧暦のお正月です。コロナの影響で海外旅行も国内旅行もダメですから、家族と会食したり、家でのんびりドラマや映画を見たりするつもりです。お正月が終わったらいよいよ就職活動です。もちろん、女性たちに関する研究も続けていきます。どんな未来が待っているのか、私は期待しています。

コロナが収束したら、ぜひ日本に行きたいです。そして皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。

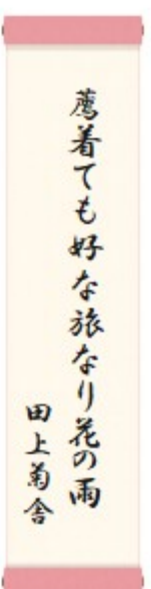
## 【編集後記】

未だ収束の様子を見せぬ新型コロナウイルスですが、会員の皆様には元氣でお過ごしのことと思います。来年度も多くの行事の中止が予想されますが、何か他の形で皆様との交流を図りたいと考えております。そして台湾のピピアンとも早く菊舎の里で会えることを願っています。(清)



第21号  
令和3年3月  
発行  
菊舎顕彰会

〒759-5512  
下関市豊北町田耕  
電話083-783-0734  
FAX 083-783-0734  
e-mail  
info@kikusha.com



## 「菊舎を「縁」として」

会長 磯部 多恵子

日頃より会員の皆様におかれましては、本会の活動に際し、「ご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。昨年はコロナ感染拡大防止のために活動が思うようにできませんでした。

しかし、毎年開催している菊舎顕彰俳句大会は、結果の発送という形になりましたが、無事に終えることが出来ました。皆様から大人の部三二二句、学生の部六四三句と、前年同様の「ご投句をいただきありがとうございます。結果を次ページに掲載しておりますのでご覧ください。来年度の行事につきましては未だ収束の様子を見せないコロナ禍のため未定ですが、菊舎を学生の方たちに知っていただくために『菊舎読本』を制作し、学校関係に配布したいと計画しております。

このような活動が今できますのも、岡前会長の長年に渡る活動の賜物とっております。昨年の十一月には、「芸術・文化・スポーツ功労」の部門で岡 昌子氏が県選奨を受賞され、その功績が内外に認められたことは、私たちにとりましても大きな喜びです。

最後になりましたが、来年度も菊舎を「縁」として文化活動に微力ながら精進して参る所存でございます。今後ともお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

## 「人生は邂逅、そして」

一字庵十一世 岡 昌子

菊舎の年齢を一つの目標としてきた私が、なんとこの二月二日に喜寿を迎えた。様々な病を経験しながら、「ここまで生かされてきたことに感慨も深い。

私の座右の銘は、亀井勝一郎の「人生は邂逅」であったが、続いての「開眼し、瞑目す」の言葉も心に響くようになった。私の人生は、菊舎に出会い、その「縁」で巡り合った多くの人から物事を教わり、たくさんのお恩恵を被ってきた。あとは瞑目まで、磯部会長の後押しをしながら「田上菊舎」を讀え続けたいと思う。

磯部会長と私は、菊舎の生誕地に嫁いできた者同士ではあったが、出身地や現在の自治会も違い、長い間接点はなかった。しかし、互いに俳句に出会ったことをきっかけに、今では切っても切れぬ仲となっている。それに年齢の差こそあれ、誕生日は同じ二月二日。この「時世だから、祝杯も挙げずソーシャルディスタンスを保ち、「おめでとー」の声を掛け合った。常に会員さんへの感謝を口にされる磯部会長と、その夫君のご尽力には頭が下がるばかりだ。

